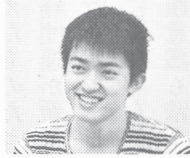


— 広告 —

KIT
キャンパス
レポート ⑧
文・出島二郎
マーケティングプランナー



小山 修史 (こやま まさし)
金沢工業大学大学院工学研究科
機械工学専攻
博士前期課程一年
岐阜県出身
名古屋工業高等学校卒業

ものづくりがやりたくて ともかく夢考房に入りたくて。

このレポートの取材が続けると、子供のころの生活環境が受験や進路の決定に大きく影響していることがよくわかる。小山さんは自動車系のエンジニアの父親からものづくりの話をいっぱい聞いて、工業高校へ。大学は迷わずに夢考房のある金沢工大へ。ちなみに兄はJRRの運転手をしている。

「父が好きなものが、ものづくり

と鉄道で、それを兄弟で半分ずつ受け継いだというか。夢考房ロボットプロジェクトが世界一になったのは学部一年のときなので出場はしていません。でも世界大会のベトナムに応援に行つて、一気に人生観が変わりましたね。引つ込み思案だったのが、リーダー的な立場に憧れるようになって。五十人ぐらいのメンバーと共同作業を

する経験は、いろいろな面で自分を成長させてくれたと思います。」
四年次から指導を受けている鈴木亮一教授の専門は制御工学。近年は、福祉機器のための制御応用や、リハビリテーションへのロボット工学の応用に関する研究を展開されている。小山さんは学部一年のときに、授業がしっかりしているという印象を持ったのである。

「とにかく鈴木先生は制御工学に強いということ。ロボットを思い通りに動かすには、その知識が必要になりますからね。研究テーマは『遠隔手術ロボットの感覚フィードバック』で、手術支援ロボットの遠隔制御に関する研究です。極限的な状況におけるロボットハンドの感覚をフィードバックできるかどうかという部分が大きい。」
小山さんは昨年の看護理工学会で発表したペーパーを用意してくれていた。私には理解できないが、内部モデル制御の手術用鉗子シス

テムの応用という発想は、おもしろいと思ったのである。腹腔鏡手術はだれしも関心を持たざるを得ない時代に入っているのだから。

「この夏、本学で開催されたC DIOアカデミーのサポータースタッフをしました。海外から四十人ほどの学生が来て、三日間でドローンをつくるプロジェクトで、貴重な体験でした。就職は第一志望の電子部品メーカーに内定。モーターで知られていますが、ロボットなども。ぼくは幅広い知識を統合することが好きなので、総合的なエンジニアになりたい。」

小山さんは、国内の学会にとどまらず、海外での発表をと意欲を燃やしている。四歳で父からパソコンをもらったものづくりの道を歩き始めたが、その夢の追求は、これから本番である。

金沢工業大学
石川県野々口市扇が丘七丁目
電話番号 〇七六二二四八一〇〇〇